

# 50年後の板橋を考えよう

「板橋区が変わることは東京が変わること、それが日本や世界を変えることになるかもしれない」(生徒の手紙より)

板橋区立加賀中学校3年4クラス◎135人  
3月4日・11日◎卒業目前の環境学習で

SOE NEWS

No.172

2021.4



センスオブアース  
市民による自然共生  
パンゲア

平成27年度地球温暖化防止活動  
環境大臣表彰受賞団体



## 地球・板橋区の温暖化から、 緑・生きもの・水・エネルギー・CO2排出量・ごみの量等・未来は？

50  
後年  
の

緑・生きもの・水など(発表の一部例)

### 夢・希望

- ・様々な緑に囲まれ、多くの虫がいて、きれいな水が流れる街
- ・川で遊ぶことができる街
- ・生きものが生きていくための環境が整っている
- ・石神井川にいろいろな鳥が来る川にする
- ・緑がそよぎ、川がせせらぎ命の楽園の街



### 実現への課題

- ・効率的に植物で酸素を増やす方法
- ・緑や生きものを増やす方法
- ・木を植えるアルバイトを作る
- ・公園や学校の自然を増やす
- ・タバコのない街
- ・区の土地がどのように使われているかを知り、どのように利用できるか考える
- ・住宅地や団地が多く、緑が育つ環境が少ない
- ・水が濁っていて匂いがする
- ・自然を作る場所を考える

### そのために自分が実行する事

- ・板橋の環境について詳しく知る
- ・自然由来の洗剤を使う
- ・下水道に油など、汚い水を流さない
- ・1つの家に1つの植物
- ・今ある緑や生きものを大切にする
- ・家庭で自然を作っていく  
家庭内栽培
- ・自分に何ができるか調べて実行する
- ・野菜作りをいっぱいする
- ・ごみを川に投げ捨てない
- ・新しいエネルギーをフルに生かす
- ・ボランティアに参加する—ごみ拾い、川のゴミ拾い、ポイ捨てしている人に協力を呼び掛ける
- ・コンクリの道を減らし、土の道を増やす

夢・希望

実現への課題

そのために自分が実行する事

住み続けられる街（発表の一部例）

- ・孫まで安心して暮らせる街
- ・二酸化炭素の排出量が少ない街
- ・公園が多く、緑がもっと増えて、子どもが自由に自然の中で遊べる街
- ・畑があり、住民が交代で世話をし、みんなで分け合う

- ・公園の遊具の数
- ・街のどんなところで二酸化炭素が排出されているのか
- ・食品ロスと環境の関係
- ・板橋のまちに、何が足りないか、何が必要か
- ・子どもと大人の割合、自然の面積
- ・老朽化している建物や道、再生可能エネルギーなど調べる

- ・農業体験などに自ら参加する
- ・自ら情報を発信していく
- ・道を広くする ・板橋区長になる
- ・自動車をあまり使わない
- ・公共機関を使う ・資金不足
- ・失業者に対する援助
- ・治療をだれでも受けられるようにする
- ・ポイ捨てされている量
- ・いらない施設をこわして、自然を取り入れる、大人と子どものための施設を活発にする
- ・小さな子どもたちが遊びやすい環境にする
- ・交通量の多い道に公園を作り、空気をきれいにする

エネルギー（発表の一部例）

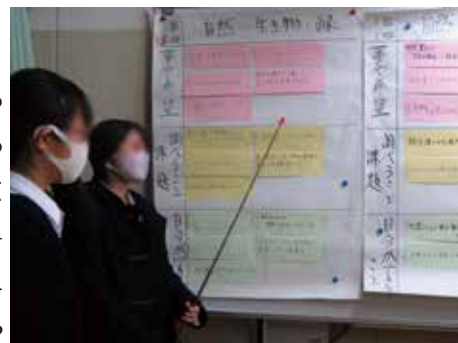
- ・環境を守ることを第一に考えられるお手本になれるような街
- ・二酸化炭素の排出量が少ない街
- ・再生可能エネルギーがとても高い街
- ・省エネ、再生可能エネルギー発電が当たり前の街

- ・土地がいらす発電効率が良い発電方法
- ・再生可能エネルギーどこで、どのように使えるか、そのコストは
- ・日本の再エネの発電量
- ・日本でどのくらい太陽光発電ができていますのか
- ・各家庭で行える発電の種類
- ・CO<sub>2</sub>を大きく減らすためにすべきこと

- ・暖房や冷房を使わない
- ・積極的に再生エネルギーを使う
- ・緑のカーテンとか、ECO活動を行う
- ・省エネのために、コンセントを毎回ぬいたり、省エネ製品を使う
- ・節電をする、環境活動に取り組む会社の商品を買うなどして応援する
- ・各家庭や屋根にソーラーパネルを設置する（複数）
- ・タクシーは、電気自動車を選ぶ
- ・食べものを捨てる量をへらす
- ・細目に節電

生徒からの手紙より～

◎私たち中学生も、地球温暖化の加害者であり、被害者でもあるということがわかりました □この講座でぼくの自然や環境に対する考えは、大きく変わりました ◎自分たちが中心となって地球をよりよくしていかなければならない □実験や発表があり、私たちが参加できるものだったので、とても楽しかった ◎私たちの後の代の人たちも安心して暮らせるような環境を作りたい □板橋区をこれから



どう守っていくか ◎環境について深く興味を持ち、深く考えます。今まで努力をしてきてくれた分まで引き継いでいきます □少しの行動の変化によって地球温暖化は抑制できるのだと学んだ

加賀中学校学校だより～令和3年3月16日より一部抜粋～ 「50年後の板橋を自分たちの力でどんな街にしていきたいか、(中略) 緑や生きものの多い街にしたい・きれいな街にしたい・板橋を住みよい街にしたいという思いが伝わってきました。～「ふるさと板橋」への郷土愛も深められたと思います。～この環境教育プログラムを通して、身近な「いたばし」のことを深く知ることが出来、「より良い未来」を拓くための自分たちの行動について考える機会になりました。」



## こぶし保育園☀️卒園遠足

# いもむしのたからぶくろ ～春の自然を見つけよう 風となかよし ～風車と紙トンボで遊ぼう

5歳児◎15人◎3月17日  
板橋区水辺公園 すてきなさくらの広場で

卒園児たちは、もうすぐ1年生。素直で、活発で、協力し、話を聞くのも上手です。今日は卒園のお祝いに特別に、2つのプログラムを実施しました。それぞれに紙芝居のある楽しいプログラムです。「いもむしのたからぶくろ」から始めました。



### 子どもたちの発表

- ☺️鳥の音がいっぱい聞こえた
- ☑️木の実、木の葉っぱを見つけた
- ☺️花のにおい、レモンのにおいがした
- ☑️生きもののおうちを見つけた
- ☺️セミの抜け殻があった

後半は「風となかよし」です。風車と紙トンボを屋外で作って、ひろばで遊びました。



# 「各国の食品ロス対策 ～冷凍食品で新型コロナウイルスが輸入される？」 食ジャーナリスト 小倉正行氏



レポート提供

東京家政大学宮地孝宜ゼミ3年生有志による食品ロスの発表(2年生有志ボランティア参加)



食品ロスの問題に、関心を高めていた学生たちが、コロナ下でも、毎月のSOEのリモート環境教育体験・実践講座で関心を高め、課題を調べ上げて行きました。この成果を社会へ発信する機会として、センスオブアースが、講演会を企画実施しました。(於エコポリスセンター)

講師の小倉正行さんは食ジャーナリストとして、雑誌「食べもの通信」で、食品ロスについてわかりやすく発信している方です。「2050年には、世界の

人口が、今の77億人から96億人となり、気候変動によって穀物の値段は、23%上昇し、飢餓の拡大を警告、食料生産・消費システムから、排出される温室効果ガスが、世界のCO<sub>2</sub>総排出量の21～37%占めていることを初めて明らかにしました。(IPCCの報告・国連気候変動に関する政府間パネル)そして食生活を変わると、温室効果ガスは、2050年までに年間7億トン～80億トン削減できるので、食生活のロスを減らし、水資源を守るため、環境への負の影響が大きい肉食に偏重している食事は変えていくことが必要だ」と述べられました。



学生たちの研究した食品ロスのテーマ「食品の流れ」「捨てたらどうなるか?」「日本と世界を比べよう。」「途上国の食品ロスについて」「みんなで一緒に取り組もう」の五部門を、どのグループもわかりやすく、さわやかに説明しました。参加者は、学生の発表を、もう一度聞きたいという方もいました。講師と学生によるすばらしい環境学習提供であり、食品ロスをなくしていく普及活動になりました。



発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア